

アートを探求

AICHI
ARTS
CENTER

by 愛知芸術文化センター

AAC Journal

2025 AUTUMN

Vol. 125

NDT
Nederlands
Dance Theater



© Rahi Rezvani

ネザーランド・ダンス・シアター(NDT2) 来日公演2025
「あいち2025」がついに開幕
刺繍で紡ぐ時代の断片 青山悟
劇場と演劇 劇場が演劇を創るということ

NDT

ネザーランド・ダンス・シアター(NDT2)

来日公演 2025

2025年11月24日(月・休)
ネザーランド・ダンス・シアター (NDT 2)
来日公演2025

場所／愛知県芸術劇場大ホール 時間／16:00～
料金／SS席 13,500円、S席 12,000円、
A席 9,000円 [A席U25] 4,500円ほか
チケット／発売中
※[U25]は公演日に25歳以下対象(要証明書)。
※未就学児入場不可。
※「劇場と子ども7万人プロジェクト」
(小・中・高校生招待)対象公演。

「劇場と子ども7万人プロジェクト」
などの詳細は劇場WEBページで！



愛知県芸術劇場

世界中で絶賛されるオランダを拠点とする

コンテンポラリーバレエカンパニーによる珠玉の3作品

革新的なダンス表現で世界を牽引するオランダのコンテンポラリーバレエカンパニー「NDT(ネザーランド・ダンス・シアター)」が、今年も愛知県芸術劇場に登場します。昨年5年ぶりに来日し、極上のパフォーマンスの数々を披露したNDT。半世紀以上にわたる活動は、国際的に評価され、世界最高峰のカンパニーとして賞賛を浴びています。

今回は、新進気鋭の若きダンサーで構成されるNDT 2が来日し、3作品を上演します。

1作品目は、スペイン出身の振付家で、ダンスをはじめ舞台芸術のさまざまな分野で活躍するマルコス・モラウ振付の『Folkå』(フォルカ)。2025年春にNDTの常任振付家に就任し、国際的に注目を集める振付家です。本作では、ブルガリア音楽合唱団による印象的な歌声と、ダンサーたちの力強く精緻な動きが融合し、底知れないエネルギーを放ちます。

2作品目は、スウェーデン出身の振付家で、独自の演出スタイルで世界的に注目を集めるアレクサンダー・エクマンによる『FIT』(フィット)。エクマンはパリ2024パラリンピック競技大会の開会式の演出・振付監督を担い、話題を呼びました。デイヴ・ブルーベック・カルテットによるジャズの名曲「Take Five」を用いたユーモアとリズム感が際立つダンスを演出しています。

3作品目は、イギリスの振付家のボティス・セヴァによる『Watch Ur Mouth』(ウォッチ・ユア・マウス)。ヒップホップやコンテンポラリーダンスなどの領域を超えて活躍するセヴァは、自伝的要素を取り入れた社会へのメッセージを追求。シャネルが文化芸術界の革新を促進するために新設した「シャネル ネクスト プライズ」を受賞するなど、若手振付家として、近年最も注目を集めている振付家のひとりです。

NDT 2の若きダンサーたちの強靱な肉体で挑む、最新作を含むエネルギーあふれる作品にご期待ください。

国際芸術祭

「あいち2025」がついに開幕

多数の展示・公演を楽しんで

初めて海外から芸術監督を招き、9月13日(土)に開幕する国際芸術祭「あいち2025」。会場のひとつ「愛知芸術文化センター」では、複数のフロアで現代美術展を開催し、多数のパフォーミングアーツ公演も行います。公演は毎週末の夕方为主なので、現代美術展を楽しんだ後にパフォーミングアーツの鑑賞と、充実した一日を土日にご過ごせます。8階展示室Jの「ラーニングセンターへたち」では、ライブラリーを備えた交流の場としてトークイベントやワークショップも開催します。

また、愛知県陶磁美術館と瀬戸市のまちなかの会場は、ロケーションを生かした展示やまち歩きも魅力のひとつ。フリーパスで何度でも訪れたい芸術祭です。

なお、愛知芸術文化センター地下2階には、地元人気店とのコラボレーションショップが登場するので、ぜひお立ち寄りください。



フンゲシ・ムトゥ 《Sleeping Serpent》2014
Courtesy of the Artist and Victoria Miro London.

2025年9月13日(土)～11月30日(日)[79日間]
国際芸術祭「あいち2025」

芸術監督／フール・アル・カシミ
テーマ／灰と薔薇のあいまい
場所／愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか

現代美術展チケット

フリーパス	一般3,500円(3,000円) 学生2,300円(2,000円)
1DAYパス	一般2,100円(1,800円) 学生1,400円(1,200円)
※()は前売券。	



詳細は
「あいち2025」
サイバー
ガイド

スタッフのオススメ関連本！

ART LIBRARY

国際芸術祭「あいち2022」STILL ALIVE

国際芸術祭「あいち」組織委員会／編
国書刊行会、2023

国際芸術祭「あいち2022」の公式図録。国内外100組のアーティストによる全作品の様子を、解説とともにオールカラーで掲載。芸術監督やキュレーターらによるエッセイや作品リストも収録。

愛知芸術文化センター管理課 アートライブラリー担当 三上昂良



劇場

鑑賞 note



心を揺さぶり、思考が巡る、その場でしか味わうことのできないもの。丁寧な言葉で残されたレビューを読み深めてみたい。

美術館

生き物たちの交感：劇場という交差点

2022年の初演以来、30か国以上で上演されたアクリム・カーンの『ジャングル・ブック』。世界ツアーの最終地・愛知公演は万雷の拍手の中、幕を閉じた。ノーベル賞作家キプリングの原作(1894年)を大胆に読み替えた本作は、気候変動という地球規模の課題を扱う、今を生きる「私たち自身の物語」である。

まだ明るい客席に雑音まじりのニュース音が流れると、劇場は一気に作品世界へと引き込まれた。一瞬の闇の後、緑色の照明に浮かび上がるダンサーたちのシルエット。原始の壁画や密林の木々を思わせる群像が息づき始める。かと思えば、紗幕に映し出される線画アニメーションによって、舞台と客席は隔てられてしまう。降りしきる雨、渦巻く洪水、カーンの本拠地である英国の象徴ビッグベンも濁流にのみ込まれ、逃げ惑う動物たち。気候変動による海面上昇のために荒廃した都市で、動物・自然・人間の共生を模索する物語が展開されていく。

動物の生態調査から振り付けられたダンスは、単なる模倣ではなく動物に「なる」ことが追求され見事だった。狼、黒豹、熊、猿といったキャラクターが個々に輝く場面もあれば、段ボール箱を巧みに操り巨大な蛇を出現させる場面も。迫力ある群舞からは、種を超えた「生き物」たちの全身全霊の叫びが伝わる。ダンス・音楽・映像・台詞が融合した舞台は、絵本の中の世界を覗き見るような魅力にあふれていた。一方で、その深刻なテーマに対し、ただ見ていることしかできない、言い知れぬもどかしさにも見舞われた。しかし、この隔絶感こそが、本作が突きつけた問いだったのかもしれない。

カーンは、ライブでの公演こそが「人類に残された最後の儀式」だと語り、芸術監督の唐津絵理もまた、「劇場とは、見知らぬ誰かと同じ空間で同じ時間を共有する、かけがえない場所」と述べる。舞台と客席、人間と動物、過去と未来、映像と現実という「あちら」と「こちら」に分かたれた世界が、劇場という「今、ここ」で、束の間交差し、問いかける。折りしも、2027年3月をもって活動を終了することが発表されたアクリム・カーン・カンパニー。『ジャングル・ブック』最終公演は、生きとし生ける身体が共鳴し、交感しあう「劇場」という時空間の尊さを実感させ、私たちの未来を真摯に問いかける、エネルギーと希望に満ちた作品だった。

関 典子さん Noriko Seki

神戸大学准教授、ダンサー、兵庫県立芸術文化センター「薄井憲二バレエ・コレクション」キュレーター。近年は歴史的バレエ作品の再創造に取り組んでいる。



埼玉公演より © 宮川舞子

アクリム・カーン『ジャングル・ブック』
2025年6月28日(土) 場所／愛知県芸術劇場大ホール

愛知県芸術劇場ダンスアーティストの 三東瑠璃から10月公演に向けてメッセージ

上演する『満ちる』は、現在を生きる身体と感覚にフォーカスした作品です。名づけられない感情や記憶のかけらが、内側から静かに満ちてくる。その瞬間にただ"在る"ことの豊かさを、観る人の呼吸や気配とともに丁寧にすくい上げたいと思います。

三東瑠璃
(愛知県芸術劇場ダンスアーティスト)



三東さんの作品『満ちる』は、10月30日(木)「パフォーミングアーツ・セレクション2025」にて上演。© HATORI Naoshi

お知らせ

Letter

詳細は
公式WEBサイトで!



「あいち2025」参加アーティストの作品が 県内4市町を巡回します!

巡回展示「ポップ・アップ!」は移動型の展覧会で、国際芸術祭「あいち2025」に参加する14組のアーティストらによる作品が県内4市町(豊田市、設楽町、大府市、豊川市)を巡ります。芸術祭の現代美術展とは異なる作品を入場無料でご覧いただけるほか、週末には学芸スタッフによるガイドツアーや参加アーティストによるワークショップなどもあり、どなたでも気軽に楽しめる企画です。



カマラ・イブラヒム・イシャグ
《灰と薔薇》2024 photo:Waleed Shah

もっと知りたいアート専門の図書館

ART LIBRARY

(愛知芸術文化センター1F)

先日、扉の外から「図書館がある!？」という声が聞こえてきました。そうです! ありますよー。美術・音楽・演劇を主とした芸術の図書館です。目印は青い返却ポスト! 中へ入って、知の探検を楽しんでください。



デザイン／神谷直広、高木若菜(株式会社Rand)
編集／村瀬実希(MAISONETTE Inc.)、土井育衣
印刷／長苗印刷

© 愛知県芸術劇場2025

※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。 ※本誌に掲載している価格は、原則的に消費税込みの価格です。
※掲載内容は2025年8月19日(火)現在のものです。展覧会・公演の内容を変更、または開催を中止する場合があります。

2025年9月1日号 Vol.125 発行・お問合せ／愛知県芸術劇場(公益財団法人 愛知県文化振興事業団) ☎052-955-5506 e-mail／mkt@aaf.or.jp(企画制作部)



INTERVIEW

刺繍で紡ぐ時代の断片
青山悟

聞き手／愛知県美術館 主任学芸員 森美樹
撮影／千葉亜津子

社会構造を浮かび上がらせる
テキスタイルアートとの出会い

森（以下、森） 工業用ミシンを使った刺繍作品を発表されている青山さんですが、どういったきっかけでこの技法を使い始めたのでしょうか？
青山（以下、青） 大学時代、ロンドンのゴールドスミス・カレッジのテキスタイルアート科に所属していた頃からです。本当はファッション学科を目指していたんですけど、そちらには落ちてしまっただけで、でも当時の先生に「テキスタイルなら余裕があるよ」と誘ってもらえたので入学しました。日本でいう「テキスタイルデザイン」を何となく想像して入ったのですが、テキスタイルアートは全く別の世界でしたね。

森 どのような学科だったのでしょうか？
青 大まかに言うとフェミニズムを根幹とするエンターテインメント、制作を通してそれを学ぶ学科です。男性が主体のアートシーンのなかで、女性が針仕事を通じて築いてきた分野なんです。なので、学生も女性ばかりで男性は僕を含めて2人しかおらず。しかも、2人とも1年目は全くついていけずに仲良く揃って留年してしまいました（笑）。それで、「これはマズい」と奮起してあらゆる技法に



《Rose》2023年 愛知県美術館蔵



2011年に6本の《Rose》を発表した後、青山は「バラをつくることを自分の作家活動において二度としない」と宣言していたが、《N氏の吸い殻》と対面させるかたちで特別に《Rose》を再制作。あえて裏糸を出し、バラの棘を表現するなど、細やかな技法に目を奪われる。過去10年をつなぐ2作品の対比にも注目したい。



トライして、結果的に残ったのがミシンとシルクスクリーンプリント。ミシンって、産業革命や女性の労働の劣勢、今の大量生産・資本主義の問題などの象徴的な機械でもあると思うんですよ。それを使って、男の僕が作品を作ったら面白いし、意図せずとも何らかの意味が生まれるのではないかと、いつ気持ちもありました。

森 積極的に自分で選びとったというよりは、最終的にたどり着いたという感じだったのですね。

青 そうですね。今思えばです。正直、日本人留学生で向こうにいると、いろんな困難にぶち当たるわけですよ。言葉の問題をはじめ、社会構造のなかでさまざまな困難があった、その困難に自分がどう立ち向かうかということと、テキスタイルを扱う女性たちが社会的葛藤をどうやって乗り越えてきたかという点はリンクするようになった気がします。

Satoru Aoyama
1973年東京都生まれ。98年ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジテキスタイルアート科卒業。2001年シカゴ美術館附属美術大学大学院ファイバー&マテリアルスタディーズ科修了。歴史的には、日陰の女性の活動と結びつけられることの多い、工業用ミシンを用いて制作を行う。近代化以降、変容し続ける人間性や労働の価値を問い続けながら、刺繍というメディアの枠を拡張させる作品を数々発表している。

にどんな気分づくようになってきて、だからこそ30年近く同じ技法で制作を続けられているのだと思います。

森 ロンドンの後、アメリカ・シカゴの大学院に進まれましたがシカゴのアートシーンからはどんな影響を受けましたか？
青 ロンドンと比べるとアートシーンの規模は小さいですが、刺激も多かったです。行き詰まると、シカゴ美術館にジョルジュ・スーラの《グランド・ジャット島の日曜日》の午後をよく見に行っていました。リンド・ソックリン^①が著書のなかで、その作品について「労働と階級を描いた絵だ」と書いていますが、まさにその視点に共感しています。僕のミシンの作品も、女性の労働や資本主義の構造への批評を含んでいます。社会のなかで透明化されてしまった人たちの光の当て方は、バックリンの影響も大きいですね。

森 東日本大震災直後に《Rose》を制作されました。バラのシリーズにはどのような思いがあったのでしょうか？
青 バラの作品は、実は震災前から作っていたんです。当時、ウィリアム・モリスの《アーツ・アンド・クラフツ運動》つまり社会運動と工芸の関係を強く意識していて。最もありふれた、言ってしまえば面白くないモチーフであるバラに、ミシンで「こま」で迫れるかという試みをしてはいたんですが、そのなかで震災が起きた。アーティストとして「自分に何がで

「消えゆくもの」と向き合い
何を縫いとどめるか

理由の一つに他なりません。では逆に、舞台芸術を觀たい、舞台芸術に関わりたいたいと思っている人々が皆その思いの通りに劇場に通うことができていたのでしょうか？例えば身体に障がいのある方、子育てや介護で家から出られない方等、社会の側にある障壁に阻まれ劇場に通えない方々。性別や性的指向、国籍などによる差別によって、劇場を自分の場所と思えない方。経済的状況の変化に伴いチケット代を高く感じる方。こういった、いまだ劇場に足を運ぶことができない方々に、これは私の居場所だ。自分の声は、他者や社会にも確実に響くのだ」という確信の持てる場所として、劇場を位置付け直すことはできないでしょうか？社会が成熟の段階に入った今だからこそ改めて、本当の意味で「すべての人」の人權を第一に、これまで透明化されてきた存在を可視化し、無視されてきた声を響かせる場所としてメニコンシアターAoiを育てていく、これがそが、これまで多くの民間企業が取り組んできた文化芸術振興のための取り組みの系譜を受け継ぎつつ、現代日本で劇場を運営する意義ではないでしょうか。

MORE THEATER

国際芸術祭「あいち2025」期間中に
メニコン シアターAoiでも開催！

パフォーミングアーツ・セクション2025
Festival Edition

愛知県芸術劇場芸術監督／Dance Base Yokohama (DaBY) アーティスト・ディレクター・唐津絵理によるディレクションのもと、Dance Base Yokohamaと共同製作した6作品を、愛知県芸術劇場とメニコン シアターAoiで10月30日(木)～11月2日(日)に一挙上演します。



山口 茜
メニコン シアターAoi 芸術監督

劇作家、演出家。2023年4月メニコン シアターAoi 開館にあたり初代芸術監督に就任。上質な演目の上演だけでなく、次代を担う才能の発掘・復帰支援、さまざまな方が劇場体験を享受できる仕組みづくり、未来の舞台芸術を担う人材の育成にも取り組む。

ART LIBRARY
スタッフのオススメの演劇の本！
演劇入門ブック ビジュアルで見える演技法ー
ジョン・ペリー／著、大幸久夫／監訳
玉川大学出版部、2014.5
演技者（アクター）のための入門的演劇実践書。翻訳本だが、モデルを日本人に置き換え、基本の演技法を詳しく丁寧に解説した内容と、演劇の基礎知識を紹介した2部構成となっている。



愛知芸術文化センター管理課 アートプラザ一担当 三上昂良

navigator's
COLUMN

国際芸術祭「あいち2025」のキュレーターやスタッフがナビゲート。
アートの多様性を「あいち」から発信します。

開幕時の暑さが風物詩(?)の国際芸術祭「あいち」ですが、さすが砂漠も湾も擁するアラブ首長国連邦シャルジャ出身のフール・アル・カシミ芸術監督。9月13日(土)の開幕に向けて、熱中症対策をしながら、アーティストとスタッフと一緒に現場を奔走しています。世界中で注目を集めるアーティストやパフォーマーによる日本初公開の作品から瀬戸ならではの新作まで、60組を超える多彩な作品が勢ぞろいします。より一層、国際色が増した「あいち2025」にどうぞご期待ください！



国際芸術祭「あいち2025」学芸統括
飯田志保子（キュレーター）
© ToLoLo studio

国際芸術祭「あいち2025」
『炎を囲む三日三晩——「瀬戸」に触れる特別な時間』

11月1日(土)～3日(月・祝)に、会場のひとつ愛知県陶磁美術館でイベントを開催します。同館が毎年秋に行っている復元古窯焼成イベントとあわせて、開館時間を延長するナイトミュージアムやラーニング・プログラムなどを体験いただけるほか、11月2日(日)16～21時には、Barrack企画の音楽ライブやフードが並ぶ「ホノノ夜市」も！

